福岡・博多遺跡群（築港線関係第三次調査）

1　所在地　福岡市博多区上呉服町
2　調査期間　一九八五年（昭60）二月～一二月
3　発掘機関　福岡市教育委員会
4　調査担当者　力武卓治・松村道博・吉留秀敏・大庭康時
5　遺跡の種類　集落跡・墓地跡・都市跡
6　遺跡の年代　八世紀～一七世紀
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

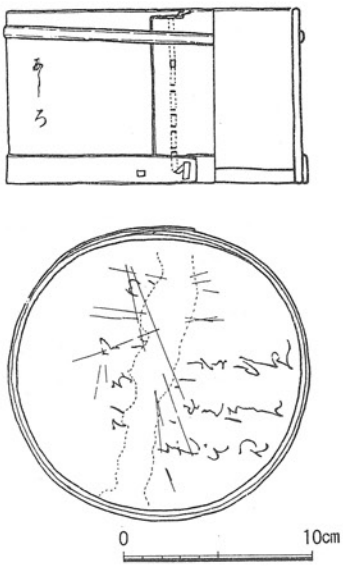
博多遺跡群は、博多湾に面し、那珂川・御笠川が形成した砂丘上に立地する遺跡群である。弥生時代中期以降現在まで、特に古代末から中世を通じては貿易都市として繁栄した複合遺跡である。約一二〇*ha*をはかる遺跡は、すべて現在の都心部に埋没しており、一九七七年の地下鉄関係調査以来、各種公共開発・民間開発に際して調査を実施している。本調査は、都市計画道路博多駅築港線拡幅にともなう第三次調査となる。

（福　岡）

本調査地点からは、奈良時代後半以降近世初頭までの井戸・土壙・柱穴・溝等を検出した。墨書のある曲物は、一三世紀前半の一〇九号井戸の最下部より出土した。出土状況からみて、湧水部に据えたものではなく、使用中に井戸に落としたものと思われる。墨書は、曲物の胴部表面と外底部に書かれている。曲物全面には、黒漆がうすく塗られており、墨書は、曲物製作後、漆をかけるまでの間に書かれたものである。

なお、この曲物は奈良国立文化財研究所光谷拓実氏の年輪年代測定によって、一一四八年以後に、近畿地方のヒノキ材で製作されたものであることが判明した。

8　木簡の釈文・内容



(1)

「（墨画）
□□ろ〔こカ〕
て□□
その□□□
にて□□
なく候□
きて候□
□
□□
□□
お□□
いかて□
□□をあんにと
とはんや□
□
こゑて□
もはめ□□
□□□

この中□
（墨画）
□と□に
見にこそ□
きたれ　□
か□ろ□
□れ□やる
そ□し□
□□　」（側板）

「い□
□□□□すみ
□□□し
□□つらん
□□□
□□み　」（底板）

外径159　高さ95　061
（大庭康時）